

定期テストがわかる

- ▶ 定期テストとは何か？ 小学校のテストとのちがい
- ▶ 定期テストの取り組み方
- ▶ スケジュールの立て方
- ▶ 教科別の学習法

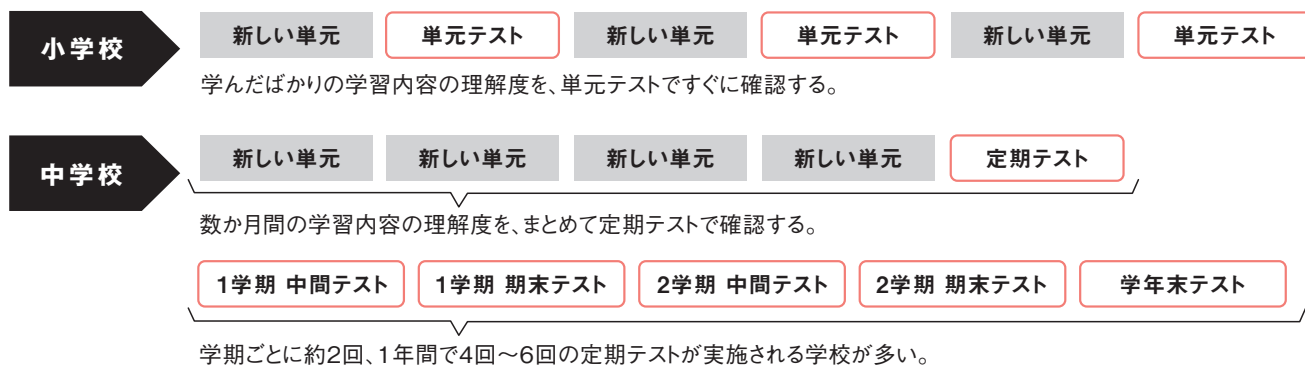


1 定期テストとは何か

中学生になると、学期に1~2回定期テストが行われます。その結果は通知表の成績に大きく影響し、高校入試では、制度や学校による違いがあるものの、合否判定の重要な資料となります。

1 小学校のテストとの違い

小学校のテストは、習ったばかりの範囲の習熟度を確認するものでした。内容も記憶に新しいので、特別な努力をしなくても高得点を取ることができていたかもしれません。しかし、中学校のテストでは数か月かけて学んだ内容から幅広く出題されます。そのため、計画的に復習・反復することが重要です。



2 定期テストの中身

定期テストでよい結果を出すには、それがどのようなものなのかを知らなければなりません。いったいどのような問題が出て、どのくらい難しいのでしょうか。

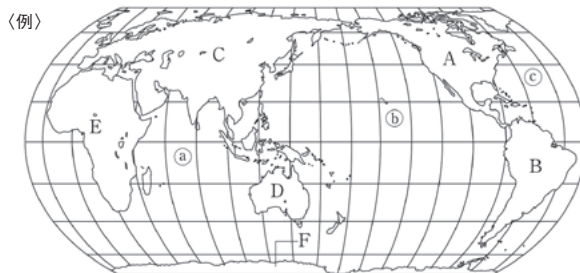
基本内容 (全体の70%程度)

どの教科でも出題の70%程度は基本から標準レベルまでの問題です。授業で先生が強調した内容や教科書の本文から出題されます。

- ①英単語・漢字など知識の暗記 ②計算・文法など基礎内容の理解

対策

- 学校の授業 ●教科書 ●授業ノート ●ワーク ●プリント
- ⇒学校の授業内容・教材を活用し確実に得点しよう。



(1) 地図中のA~Fの大陸名を、それぞれ答えよ。

発展内容 (全体の30%程度)

※問題例は、ある中学の定期テストで過去の入試問題(2017年 埼玉県)の一部が出されたものです。

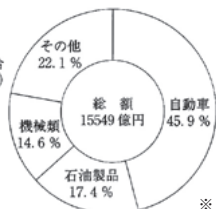
授業で解き方を教わってなくても、学んだ内容を応用して解く問題が出されます。思考力・判断力・表現力などを確かめるさまざまな出題形式です。①資料集の図表・写真 ②教科書にはない文章 ③記述問題や過去の入試問題など

〈例〉次のグラフ1とグラフ2は、地図中の日本とオーストラリアとの貿易についてまとめたものです。

グラフ1とグラフ2から読みとれる日本からみたオーストラリアとの貿易の特色を、総額と品目に着目して書きなさい。(5点)

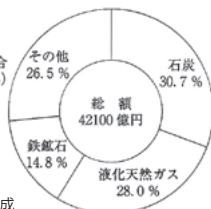
グラフ1

日本からオーストラリアへの輸出総額と輸出上位3品目の割合(2015年)



グラフ2

日本のオーストラリアからの輸入総額と輸入上位3品目の割合(2015年)



※日本国勢協会2016/17年版から作成

対策

- 栄光の授業 ●学校の教科書・ノート
- 資料集(図表・写真など)
- ワーク・新演習などの塾の教材

⇒テスト直前の勉強だけではなく、日頃からの勉強が重要です。

3 入試に直結する学校の成績

高校入試の可否は筆記試験のみで決まるのではなく、さまざまな選抜方法があります。筆記試験以外で最も大きなウエイトを占めるものを「調査書」といい、これは通知表(学校の成績)をもとに作られます。中学校での学習や生活全般が、そのまま入試における合否判定資料につながっていきます。受験はまだ先のことだと思うのではなく、今この瞬間から準備を進めることが大切です。

通知表でよい成績をとるために

「調査書点」で重要なのは教科ごとの成績で、1から5までの数値で評価されます。よい成績をとるためには定期テストで高い点数をとることが重要です。さらに、提出物・授業態度などの評価も影響してきます。定期テストでどのくらいの点数をとれば最高評価「5」をとれるのかは、その地域・学校・教科によってさまざまです。

■ 通知表の例

出席番号 15番 生徒氏名 ○○△△		学習の記録					
教科	評価の観点	前期		後期		学年末	
		評価	評定	評価	評定	評価	評定
国語	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	A	5				
	主体的に学習に取り組む態度	A					
社会	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	B	4				
	主体的に学習に取り組む態度	A					
数学	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	A	5				
	主体的に学習に取り組む態度	A					
理科	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	B	3				
	主体的に学習に取り組む態度	B					
音楽	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	B	3				
	主体的に学習に取り組む態度	B					
美術	技能・知能	B					
	思考・判断・表現	B	3				
	主体的に学習に取り組む態度	B					
保健体育	技能・知能	B					
	思考・判断・表現	C	3				
	主体的に学習に取り組む態度	B					
技術・家庭	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	A	4				
	主体的に学習に取り組む態度	B					
外国語	技能・知能	A					
	思考・判断・表現	A	5				
	主体的に学習に取り組む態度	A					

A: 十分満足できる B: おおむね満足できる C: 努力を要する

● 各成績をとるための定期テスト点数の目安

成績	定期テストでの目標点数	この成績について
5	平均点を大幅に上回る点数	小学校の頃比べて最高評価をとることは難しいですが、得意な教科はぜひ「5」をめざしましょう。定期テストの点数のみならず、提出物や積極的に授業に参加する態度も重要です。
3~4	平均点付近からそれ以上	多くの人が「3」または「4」に位置しています。「3」を普通の成績ととらえることなく、平均点以上の得点をめざし、一つでも多くの教科を「4」に引き上げる取り組みをしましょう。
1~2	平均点を大きく下回る点数	出願条件など受験で不利になってしまうことが多く、「1」や「2」をとることは避けるべきです。苦手な教科であっても平均点近くまでは得点し、提出物や授業に対する積極的な姿勢を持ちましょう。

● 東京都内公立中学校 第3学年の評定状況の調査結果

評定	最高成績 5	4	3	2	最低成績 1
令和5年度	12.4%	23.7%	47.0%	13.0%	3.9%
令和4年度	12.8%	24.6%	46.7%	12.4%	3.5%

(東京都教育委員会)

● 提出物について

定期テストの前後に、学校ワークやノートの提出を求められることがあります。もちろん期限通り提出しなければなりません。定期テストで満点に近い成績をとっても提出物の遅延だけで「4」となることもあります。

提出しさえすればよいということではありません。提出したワークの取り組み方・ノートの取り方も評価されています。ただ解いただけなのか、内容までしっかり理解しようとしているのか、提出物に表れてしまうからです。P05を参考にして、内申点アップにつながる提出物になるように心がけましょう。



受験にどのように影響するのか

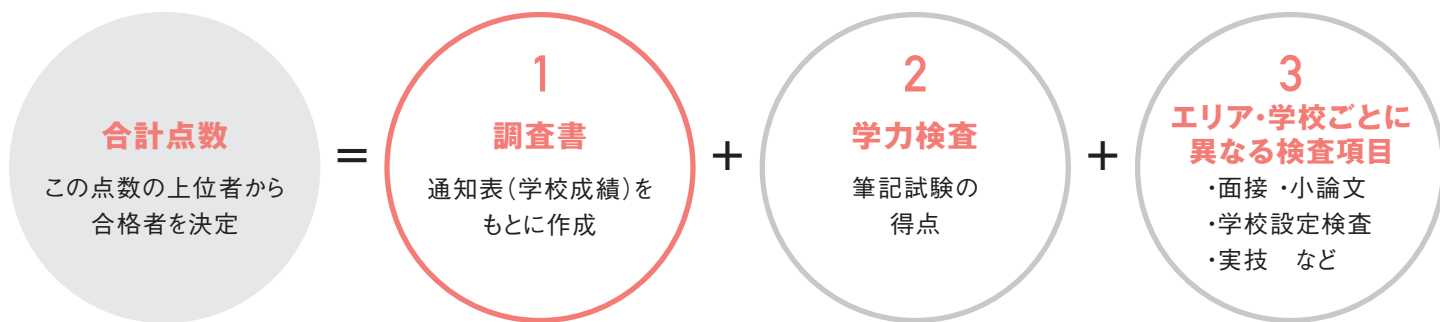
高校入試の仕組みは、地域や学校によってさまざまです。ここでは公立高校と私立高校の入試において、調査書(学校の成績)がどのように影響するのか知っておきましょう。「まだ志望校が決まっていない」という人が多いと思いますが、調査書の成績を早いうちから意識しておくことで、志望校選択の幅を広げることができます。

〈公立高校〉

公立高校の一般入試では、主に学力検査と調査書によって総合得点が決まります。

都県や学校によって得点の配分や検査項目はさまざまです。

入試当日の学力検査を重視する学校もあれば、調査書を重視する学校もあります。



定期テストの点数結果は、この「調査書」に大きく影響します。



〈私立高校〉

調査書でよい成績を修めていれば第一志望校の推薦入試の基準をクリアすることができますし、第二志望校の受験を有利に進めることもできます。

また、9教科の成績以外の活動によって内申点などに加点ができる学校もあります。

● A高校の推薦入試の基準に対する、授業外活動の加点例

コース	加点内容(下記内容のうち2つまで可能)		その他加点／出願条件など
	検定	在学中の活動評価	
難関進学コース	<ul style="list-style-type: none"> ●英検もしくは数検 2級の場合...内申+2 準2級の場合...内申+1 	<ul style="list-style-type: none"> ●部活動 大会出場/コンクール入賞...内申+1 ●生徒会 役員として従事...内申+1 	<ul style="list-style-type: none"> ●遅刻・欠席・早退 合計3日以内の場合...内申+1 ●出願条件 ①内申は中3の1学期または2学期及び欠席3年間合計が15日程度まで ②すべての教科において、内申に1がなく、人物が良好な者
総合進学コース	<ul style="list-style-type: none"> ●英検もしくは数検 準2級の場合...内申+2 3級の場合...内申+1 	<ul style="list-style-type: none"> ●部活動 大会出場/コンクール入賞...内申+1 ●生徒会 役員として従事...内申+1 ●教科成績 実技科目に5がある...内申+1 	<p>〈3年次の欠席7日以内、9教科に評定「1」がないこと。ただし、難関進学コースは9教科に評定「1」・「2」がないこと。〉</p>

2

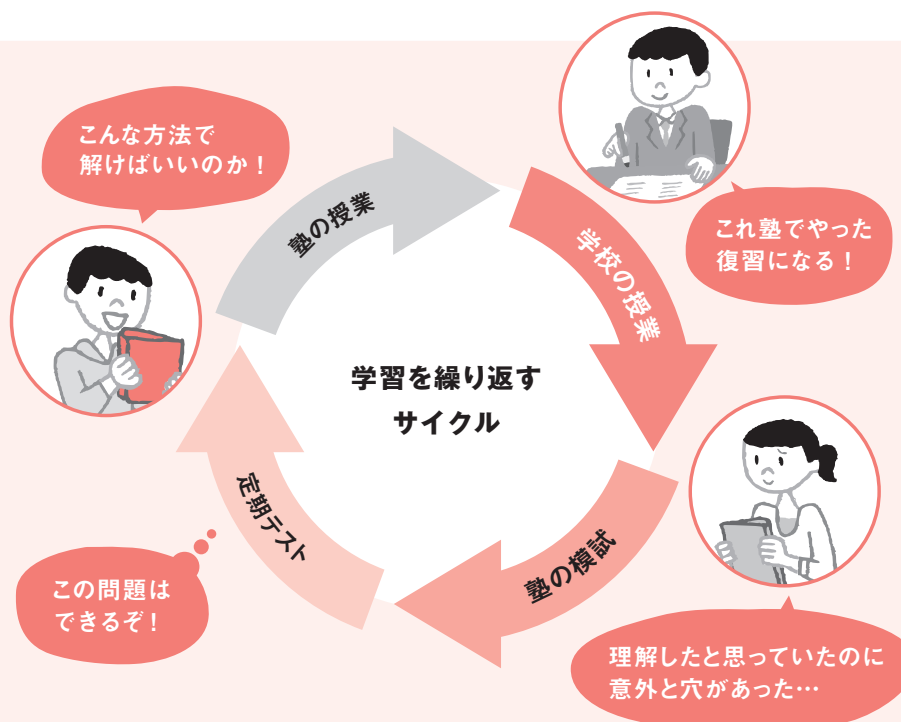
定期テストの取り組み方

1 学習のサイクルを身につける

定期テストでよい成績を修めるためには、サイクルを意識した学習習慣を身につけることが大切です。その場の思いつきで勉強するのではなく、時間を最大限活用できるような工夫をするとよいでしょう。

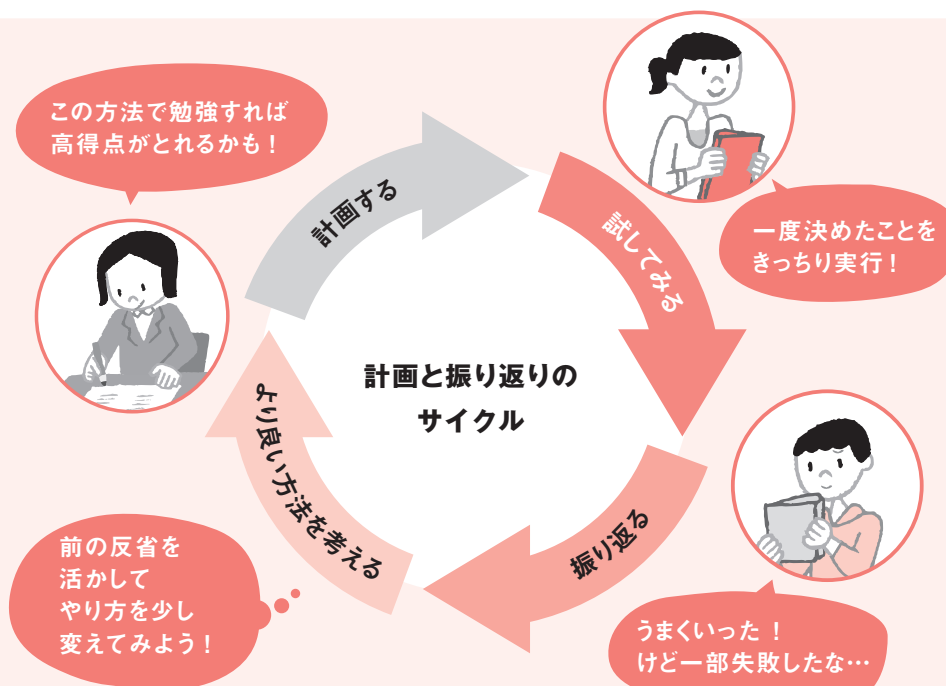
1. 学習を繰り返す サイクル

学習したことを定着させるには、同じ問題や似た問題を何度も繰り返し解くことが大切です。塾の授業・学校の授業・塾の模試には、それぞれ異なる役割があります。塾ではわかりやすい方法を先取りで学び、学校では定期テストに直結する内容を100%吸収し、模試で自分の課題を確認することで、学力が定着していきます。



2. 計画と振り返りの サイクル

「自分なりの勉強方法」というスタイルを少しずつ身につけていくことが大切です。はじめは漫然と勉強している人も、小さな気づきをきっかけに自分の勉強方法に一つひとつ工夫を付け加えていくことができます。受験学年になる前から、この工夫を積み重ねていければ、合格への道筋を自分で見つけることができるようになるでしょう。



2 授業の受け方

集中して学校の授業を受け、そこで学んだものを復習する習慣が身についていれば、テスト直前に慌てることはなくなります。そのためのポイントをお伝えします。

1. 授業の受け方

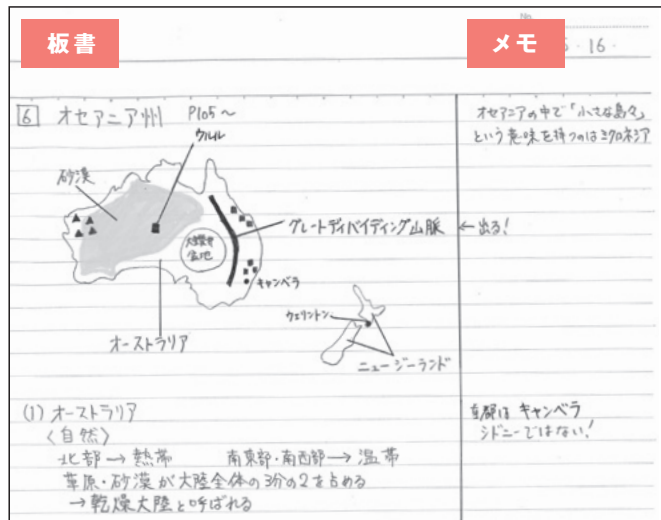
- 栄光の授業で勉強した内容を思い出す。
- 授業前に教科書を一読しておく。
- 先生が繰り返し説明する内容に注意する。
- 右に挙げたような先生の話すキーワードに注意する。



2. 役立つノートのとおり方

▼次の【例1】を参考に自分なりのノート術を身につけよう。

【例1】

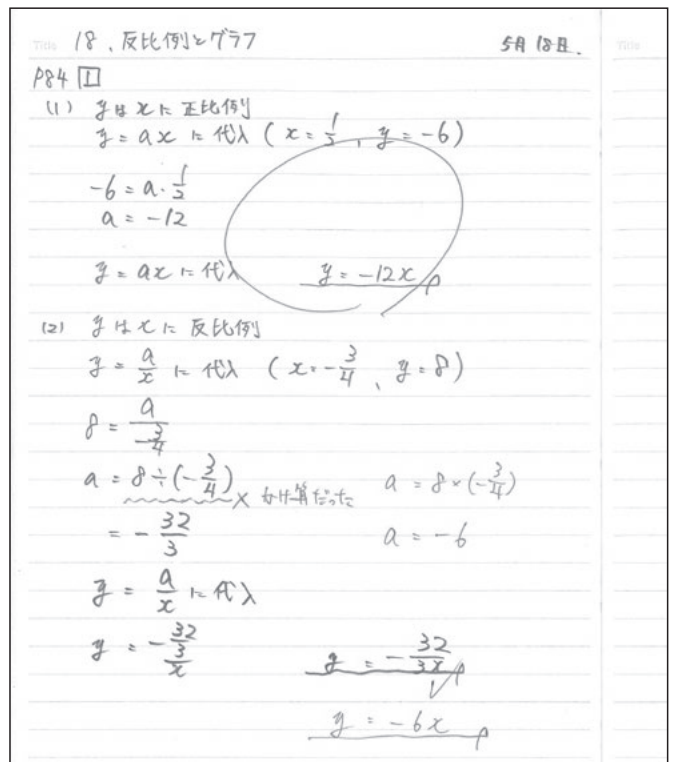


3. ワークの取り組み方

- 問題を解く過程をきちんと書く。
- 丸付けをする。
- 間違えた問題を解き直す。

▼次の【例2】を参考にワークの問題を解いてみよう。

【例2】



Check!

- ✓ **ノートに縦線を引き、左側に板書、右側にメモをとる。**
⇒メモ欄にはキーワードや気づいたこと、確認したいことなどを書いておこう。
- ✓ **色分けをする。**
⇒先生の板書に合わせて色分けするのが基本。メモ欄の色分けは自分なりにルールを決めておこう。
- ✓ **使いやすいノートを選ぶ。**
⇒方眼やドット入りのノートを使うと図形・グラフなどが描きやすい。教科ごとに使い分けよう。
- ✓ **こだわりすぎない。**
⇒重要なのは、ノートの美しさではなく内容を理解・記憶できたか。

ノートをとるのは、授業の内容を思い出し、さらに理解を深めるためです。板書を写しただけのノートでは十分とは言えません。後から「使える」ノートにしましょう。

4. 問題演習の進め方

- 授業内の演習時間にできるだけ多くの問題を解く。
- 授業を受けたその日のうちにもう一度同じ問題や類題を解く。

5. プリントの整理

- すぐにファイリングする習慣をつける。
- ノートに貼る。

3

定期テストのスケジュール

1 スケジュールの立て方

実施すべき学習の内容や時間の使い方を事前に計画しておくことで、定期テスト直前期により効果の高い学習をすることができます。下記の例を参考に自分なりの学習計画を立ててみましょう。

●学習計画の例

教科	配布された教材	活用の仕方 (定期テストまでに何回解くか、どのような状態になっていればいいかなど)	進捗率														
			0%				50%				100%						
数学	学校の教科書	□先生が解説していたポイントを自分で説明できるようにする。	■	■	■	■											
	学校ワーク	□2週間前までに1回目、ミスした問題は2回目を演習。	■	■	■	■	■	■									
	授業ノート	□ポイントをまとめ、提出する。(〇月△日まで)	■	■	■	■	■	■									
	栄光新演習	□基本問題を中心に実施、ミスした問題は2回目を演習。	■	■													
	栄光ワーク	□2週間前までに1回目、ミスした問題は2回目を演習。	■	■	■	■											

●週間学習計画の例

[日頃の学習・テスト3週間前]

勉強時間の目安⇒20時間

英	数	国	理	社	実技	合計
5	5	2	3	3	2	20

▶新しい内容を理解する期間。
▶提出物となる宿題を進めておく期間。

[テスト2週間前]

勉強時間の目安⇒30時間

英	数	国	理	社	実技	合計
4	4	4	6	6	6	30

▶テスト範囲全体について、基礎部分の理解すべき箇所を確認する期間。

[テスト1週間前]

勉強時間の目安⇒40時間

英	数	国	理	社	実技	合計
6	6	6	8	8	6	40

▶理解した箇所を定着させるため、問題演習を重ねる期間。

定期テスト範囲の発表

部活動などの停止期間

2 定期テスト範囲発表前の学習

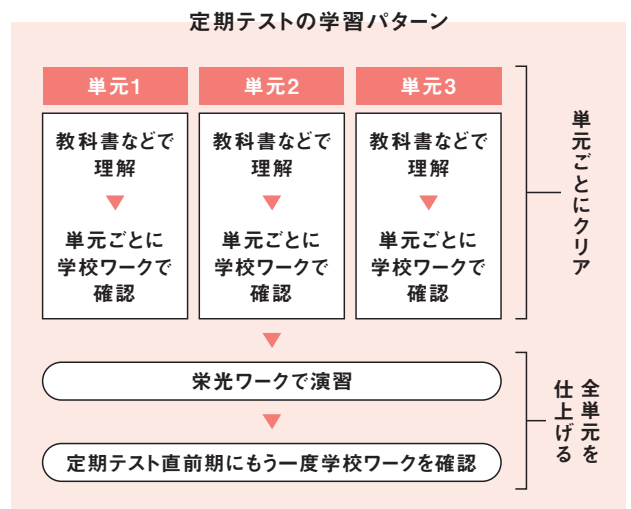
ふだんの学習で基礎内容を理解しておけば、テスト直前に慌てることにはなりません。定期テストの直前対策を行う前の時点で、教科書の基礎部分の理解・暗記事項をひと通り身につけておくことが最も大切です。

1. 基礎内容の理解

定期テスト学習で最も大変なのが覚える作業です。出される問題の約70%は、教科書に書いてある内容の理解や重要項目の定着を確認する問題です。ふだんの授業の受け方や暗記の仕方を工夫して、効率よく覚えていきましょう。

2. 提出物

定期テスト実施前後に、ワークやノートの提出を求められることがあります。提出物は内申点(成績)に大きく影響します。提出期限まで時間があると先延ばしにしがちですが、提出期日が定期テスト前になることも多く、他の学習で手一杯になっているかもしれません。提出日をしっかりと把握しておき、余裕をもって取り組みましょう。



3 定期テスト範囲発表後の学習

定期テスト約2週間前に試験範囲が発表されます。

問題演習を行い、基礎部分を理解できているかどうかを確認する期間です。

定期テストまで残り1週間を切ると、部活動や委員会活動などが停止期間に入り、学習時間をしっかりと確保することができます。

塾の定期テスト対策では、試験範囲の中でも重要な部分を知ることができるので、しっかり活用しましょう。

1. 学校で学んだ内容の復習

定期テストは学校の先生が作っているので、その先生のふだんの授業に大切なポイントがたくさんあります。先生がキーワードとして線を引いていた部分、教科書に載っていなかった先生の話が、そのまま出題される可能性もあります。こういったポイントをノートに記録できていると、定期テスト直前期の復習はとても有利になります。

2. 学校のワーク・塾のワークで問題演習

覚える作業が完了したら、次は実際に問題を解いてみましょう。問題演習をすることで「覚えた」と「覚えたつもり」の区別がつくようになります。まず学校ワークの問題を解き、理解できているかどうかを確かめましょう。間違えたところはもう一度教科書やノートに戻って復習・確認が必要です。次に、栄光ワークで問題演習を重ね、さまざまな問題に対応できるようにしましょう。そして、定期テスト直前期にはもう一度学校ワークに戻り、最後の確認をしましょう。

●定期テスト範囲表の例

時間割	教科	範囲	学習のポイント
1	国語	○教科書 P. 110～126 ・「昔話と古典 -箱に入った桃太郎-」 ・「物語の始まり -竹取物語-」 ・「故事成語 -中国の名言-」 ○国語便覧 P. 32～35 ○漢字練習 P. 58～70	漢字は、中学生が習う新出漢字が主に 出題されます。小テストで聞かれた熟語以 外も、書いてみて、形や意味を考えてみ ましょう。古典の文章も出題されます。現 代語訳を合わせてよく読み、流れを理解 しておきましょう。
2	保健	【体育分野】 ○ステップアップ P. 30～41 ・器械運動(マット) ・走り幅とび ・バレーボール ・長距離走 【保健分野】 ○新しい保健体育 P. 20～29 ○学習ノート P. 14～23	教科書、副教材「ステップアップ」、プリン ト、授業での先生の発言を復習しておき ましょう。 【提出物】 ・学習ノート P. 14～23 丸付けまで行い、○月△日に提出
3	理科	○教科書 P. 154～203 ・「2章 いろいろな気体とその性質」 ・「3章 水溶液の性質」 ・「4章 物質のすがたとその変化」 ○学習プリント ⑦、⑧、⑨ ○よくわかる理科の学習 P. 59～85	物理単元である第2章～4章までの内容 が試験範囲です。第1章は範囲外です が、考え方をきちんと復習しておきましょ う。 【提出物】 ・よくわかる理科の学習 丸付けまで行い、○月△日に提出
4	数学	○教科書 P. 99～136 ・「方程式の利用」 ・「円とおうぎ形」 ○ワーク P. 70～89 ○学習プリント ⑦、⑧	・正確に計算できるようにしましょう。 ・グラフや表を正確にかけようにしてお きましょう。 【提出物】 ・ワーク ・授業ノート 11月22日 テスト後に回収

試験範囲は常に確認できるようにしておきましょう。小さくコピーして携帯したり、スマートフォン等で写真にとっておいたりすると、いざ勉強するとき役立ちます。

3. 栄光での定期テスト対策

栄光ゼミナールでは毎授業後に学校ワークなどを指導する時間を確保しています。地域の中学校の定期テストに精通する先生たちが、各生徒に適した学習方法や教科の重要ポイントに関するアドバイスをします。直前の詰め込み学習でなく、日頃から定期テストに向けた対策を行うことで、学校成績もしっかりとアップさせます。

定期テスト対策前は…



優先順位をつけて勉強してみよう!

1. ここが最優先! 基礎の理解
2. ここがよく出題される! 頻出問題
3. ここで差がつく! 応用問題
4. これはあまり出ない、余裕があったら

定期テスト対策では…



4 定期テストが終わったら

定期テストが返却されたら、その結果の振り返りを行いましょう。
定期テストの問題を塾に持っていき、今回の学習のよかったポイントや次回に向けての反省点など、先生からアドバイスをもらうとよいでしょう。

CATS@Homeに結果を登録する

定期テストの点数・通知表の成績は、CATS@Homeに登録しましょう。自分の成績を記録することで、次にすべきことや目標が見えてきます。また、塾の先生と情報を共有することで、おすすめの学校などより良い進路指導をもらうことができます。



この「定期テスト結果登録」を押すと、
教科別にテスト結果を登録するページに飛ばよ！

先輩に学べ！テスト勉強の仕方

Aくん
の場合



栄光への入塾

「中1の4月から」

部活動や習い事

「サッカー部」

私の学習教訓

失敗でくじけるな！そこから学ぶことがある

中1の最初の定期テストで失敗し、不本意な成績だった。そこから自分の弱点を再認識し改善できた。

限られた時間を最大限に、そして有効に使う

勉強と部活動の両立は厳しい。限られた時間をどう使うかを考える。

私のテスト勉強の仕方

- 教科書はじっくり何度も音読した。そこから要点を見つけ覚えた。
- 自分の定着度を確認するためにもワークは必ず解いた。
- 間違えた問題に印を付けて、何度も繰り返し演習した。

Bさん
の場合



栄光への入塾

「小4の夏期講習から」

部活動や習い事

「ソフトボール部、ピアノ」

私の学習教訓

数学・英語はふだんからコツコツ勉強し、直前期は集中的に覚える！

教科によって、勉強法を変えていた。数学・英語はふだんから勉強していたので定期テストの直前で焦ることはなかった。そのため、直前は基本事項の多い理科・社会などに集中できた。結果として、全教科で好成绩を取り続けられた。

私のテスト勉強の仕方

- 数学・英語は学校の授業の復習として、ワークをこなした。間違えた問題には印をつけておき、定期テスト直前はその問題を中心に解き直した。
- 理科・社会・国語の基本事項は、直前期2週間で学校ワーク・栄光ワークを活用して、完璧に理解したうえでテストに臨んだ。

4

教科別の学習法

Mathematics

数学

ワークを繰り返し解き、
典型問題を押さえよう

典型問題については、ワークを使用しながら、あらかじめ解法をマスターしておくことが重要です。そうすることによってテスト本番でゼロから考えることなく、スムーズに解答までいきつくことができます。また、応用問題を解く時間を短縮することにもなります。

POINT
1

基本事項の暗記

公式・用語・定義・条件などは確実に覚えましょう。たとえば、「三角形の合同条件をすべて書きなさい。」といった問題については、覚えておかなければどうにもなりません。

POINT
2

計算力を磨いておこう

数学の定期テストで高得点をめざすために必要なのは、なんといっても「計算力」です。毎日の計算練習を習慣にしましょう。解き方の理解だけで終わることなく、自分の手で計算し答えを導くという意識が大切です。

2週間前までにマスターすべきこと

- 計算が正確にできる。
- 例題や典型問題を解くことができる。
- 公式を暗記する。
- 習った公式を使うことができる。
- 時間を意識し、速く解くことができる。

そのためにすべき行動

- ・途中式を丁寧に見やすく書く。
- ・塾や学校の授業をしっかり聞く。
- ・繰り返し演習し、間違い直しをする。
- ・具体的な問題を解き、公式を理解する。
- ・ふだんから時間を計って練習する。

Practical Skill

実技
教科

定期テストの情報源は先生と授業

実技中心の教科なので、定期テストでも授業で実際に取り組んだ内容がテーマになります。演習で時間をかけて丁寧に取り組んだところ、実技の合間に先生が説明したことなどが最も重要な情報源となります。かなり具体的に出题予定について教えてくれることもあるので、先生の言葉に注意しましょう。

実技教科の勉強にはこれがオススメ!

実技のポイントがこれでわかる

「実技4教科マスターBOOK」

音楽

保健体育

美術

技術・家庭

- ポイントチェック問題で要点の確認ができます。
- チェックシートもついているので効果的に学習できます。
- 得点UPテストでテスト形式の学習ができます。
- 3年間の学習内容をこれ1冊で学習できます。

English

英語

4技能をバランスよく学習しよう



定期テストは「リーディング(読む)」「ライティング(書く)」が中心ではあるものの、「リスニング(聞く)」問題が出される中学校も少なくありません。また、授業内で「スピーキング(話す)」のテスト(発表など)があることもあります。4技能をバランスよく学習していくことが、成績アップのカギとなります。

POINT
1

本文内容・新出単語の確認

まずは、定期テスト範囲の本文を和訳しましょう。このとき、単に意味を取るだけでなく、「指示語」や「文の構造」などを把握し、「各文のポイントを説明できるか」という視点で取り組むことが大切です。また、テストでは新出単語を1問1答形式で出題する学校もあります。発音と意味がわかることはもちろん、正しい綴り^{つづ}で書くことが必要です。綴りを間違えてしまったときは、「惜しい」で止まってしまうのではなく、完璧に書けるように繰り返し練習しましょう。訳した日本語を英文に復元できるようになると理想的で、十分な実力がついてきたといえます。

POINT
2

ワークを使って問題演習

新出単語・文法の定着のためには問題演習が欠かせません。テストでは、教科書本文の内容を覚えるだけでは通用しない問題も出されるため、学校ワークと栄光ワークの両方で演習に取り組みましょう。そうすることで、さまざまな問題への対応力が身につきます。仕上げに栄光ワークの「確認テスト」を解いて、自分の弱点の発見と克服に役立てましょう。

POINT
3

英作文の添削

学年が上がるほど、ライティング問題(英訳・英作文)が増えていきます。配点が高いことも多いのでしっかり対策しておきましょう。まずは教科書のライティングコーナーの問題に取り組み、先生に添削してもらおうとよいでしょう。このとき、自分のしやすいミス^{ミス}をノートにまとめておくと、テスト直前の最終チェックに使えるのでオススメです。また、先生にお手本を書いてもらう、英作文の類題を出してもらうなども効果的です。



2週間前までにマスターすべきこと

- 新出単語・熟語の「意味」がわかる。
- 新出単語・熟語の「発音」がわかる。
- 新出単語・熟語の「綴り」がわかる。
- 教科書本文の内容を理解している。
- 文法を理解している。

そのためにすべき行動

- ・辞書や教科書巻末の資料で調べる。
- ・電子辞書で音声聞く。先生に発音してもらう。
- ・繰り返し書く。自分でテストする。
- ・1文ずつの意味を理解し、ポイントを説明する。
- ・学校ワークと栄光ワークで演習をする。

Music

音楽

楽譜の記号、授業で出てきた作曲者の名前や曲名・楽器名は必ず暗記しましょう。授業で扱った楽器は、演奏法まで確認しておくことが大切です。また、聞き取りテストが行われることもあるので、楽器は音色までおさえましょう。もちろん実技もまじめに取り組みましょう。





教科書とワークの理解が要^{かなめ}



国語は、先生によるテスト内容の違いが特に出やすい教科です。だからこそ、授業中の先生の説明を再現しながら勉強することが大切といえます。学校ワークに加えて、先生が板書したことや、授業中に説明したことをノートにまとめて、よく見直しましょう。また、漢字・語句・文法・古典などの知識分野については、テスト形式で演習し、完全にできるようになるまで繰り返し勉強しましょう。

POINT

1

先生の読み方・解釈をチェック

文章や詩歌などについて学校の先生はどのように説明し、解釈したかを確認しましょう。また、授業では板書以外の説明もメモを取り、テスト前に見直すことが大切です。

POINT

2

学校の教科書ワークを完璧に

学校ワークは繰り返し取り組みましょう。問われ方が変わっても対応できるように、問われている部分、解答のポイントになる部分がどこか確認しましょう。

POINT

3

知識分野は確実に覚える

テスト範囲の漢字はすべて読み書きできるようにしておくのが当然の準備だと考えましょう。漢字を覚える際、すべての漢字を一律で練習するのは効率的ではありません。「自分でテスト→丸付け→間違えた漢字のみ練習」というサイクルの反復が効果的です。その他の知識についても、できなかった問題に繰り返し取り組みましょう。



2週間前までにマスターすべきこと

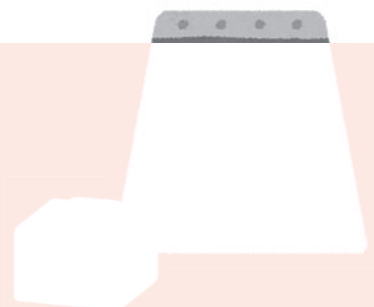
- 漢字・語句を暗記している。
- 言葉の意味を理解している。
- 国文法を理解している。
- 教科書の文章内容の理解を深める。

そのためにすべき行動

- ・ 毎日、漢字・語句の練習時間を作る。
- ・ 辞書で意味を調べ、例文を読む。
- ・ 問題ごとに理解すべきポイントを確認する。
- ・ 文章の問われやすい部分をチェックしておく。



授業で行っている競技のルールや模範例(正しいやり方)はしっかり覚えましょう。学校で配られるルールブックなどを読み込んでおくことが大切です。保健は人体についてや、応急処置の仕方、心と体、健康についてなどが重要です。



Science

理科

授業のノートやプリントを 自分なりにまとめよう

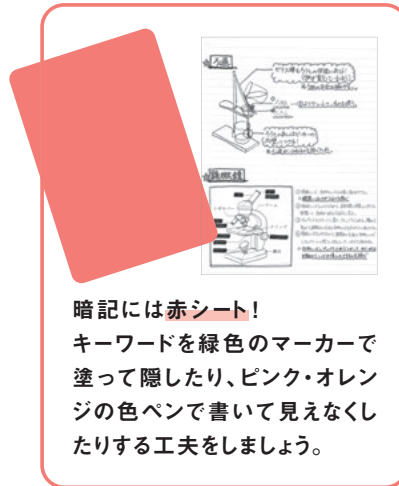


定期テストは学校の先生の特徴が出やすいです。まずは授業で学習したノートの内容や配布されたプリントを自分なりに整理した「まとめノートを作る」ことから始めましょう。まとめていく間に理解できることもあります。まとめノートを使った学習は『完成してからがはじまり』です。時間がかかる作業なので、早めに取り組むように心がけましょう。

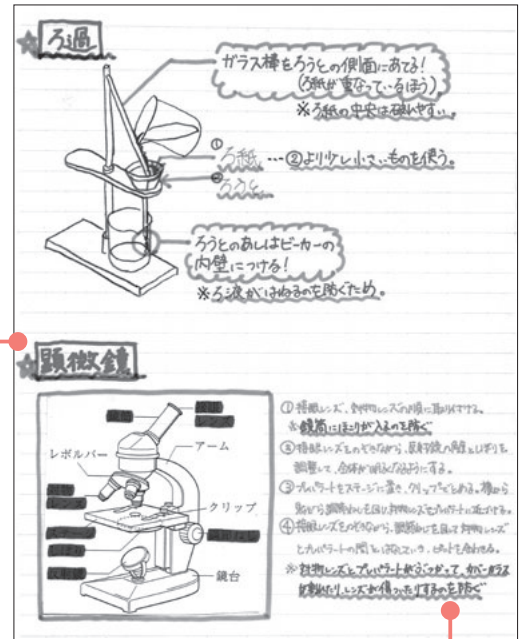
POINT
1

暗記だけで終わらずに、 しっかりと 問題演習しよう

ノート・プリントの整理や知識の暗記ができたなら、ワークの問題を解いて、自分の弱点や理解できていないところを把握しましょう。見つけた弱点を、ノートや教科書などに戻って読み直すことで、効率的に学習を進めることができます。



暗記には赤シート！
キーワードを緑色のマーカーで
塗って隠したり、ピンク・オレンジ
の色ペンで書いて見えなく
したりする工夫をしましょう。



スケッチやプリントのコピーを
貼って、実験器具の使い方や実
験の流れなどを整理しましょう。

POINT
2

解答力=原理・仕組みへの理解

解答力を高めていくカギは、「なぜそのような結果になるのか」という原理や仕組みを理解していくことです。丸暗記しただけでは、高得点は望めません。問題演習の丸付け・直しの際には、どのような考え方でその解答になるのかということを意識しながら解説や教科書・ノートで復習しましょう。その繰り返しの中で、原理や仕組みが理解でき、やがて解答力が身につけてきます。

2週間前までにマスターすべきこと

- 用語を暗記・理解している。
- 教科書のグラフや図を理解している。

そのためにすべき行動

- ・ノートや教科書の内容を整理し、暗記する用語をチェックする。
- ・配布されたプリント類を日頃からファイルし、先生が説明したポイントをメモしておく。

Art

美術

授業で学習した画家の名前や作品名などはとても重要です。また、道具の名前や作業の順番・段取り、絵を描くときの技術なども覚えておきましょう。デッサンなど実技の問題が出されることもあります。



丸暗記をせずに 上手な覚え方を身につけよう



社会は基本的に「覚える」教科です。しかし、ただの丸暗記ではいけません。「上手な覚え方」というものがあります。地図と図表、人物と時代の流れなど、さまざまな資料や情報を組み合わせて、自分なりにストーリー化してみましょう。面倒に思えるかもしれませんが、ここまでやれば知識の定着率は極めて高くなります。覚えることはたくさんあるので、少しでも効率の良い記憶法を身につけましょう。その記憶法は、他の教科にも役立つはずですよ。

POINT

1

理解を進めて 問題演習を反復しよう

まず教科書・ノート・授業プリントを読みましょう。学校の先生が授業であまり使っていないでも、教科書を読むことは大切です。音読するとさらに効果が高まります。重要な語句や歴史の流れを自分で説明できるようになることをめざしましょう。ノートまとめばかりではなく、問題演習もしないと得点力がつきません。まとめは問題演習をして間違えたときに、間違えた箇所だけ行うのが効率的です。学校ワークを解き、間違えたら教科書などを読み直して要点を確認しましょう。間違えた問題にチェックをしておき、優先的に解き直しを行うのがポイントです。仕上げとして栄光ワークに取り組みましょう。また、ワークに載っていないことでも学校の先生が「重要」と言った事項は必ず覚えておきましょう。



POINT

2

分野ごとの学習ポイント

社会は「地理」「歴史」「公民」と3つの分野に分かれています。それぞれの分野で注目すべき点を見ていきましょう。

地理

地図・グラフなどの読み取りは問題を通して慣れておきましょう。教科書に記載されている地図やグラフ・データをすべて覚える必要はありません。出題されるポイントは限られているので、覚えた知識がグラフやデータではどう表れているかを確認し、読み取るべきポイントを書き込んでおきます。その際、白地図に書き込みながら覚えるのも効果的です。

歴史

歴史の流れをおさえることが重要です。年代の暗記のみに走るのではなく、歴史上の出来事の因果関係を理解しましょう。理解を深め、関連付けて覚えることによって、効果的な学習ができるようになります。

公民

現代の社会の仕組みに関わる分野なので、時事問題が扱われることもあります。勉強したことと実社会とのつながりを意識することが重要です。日常生活で経験することや見聞きすることに関連させて理解することで、知識の定着度が大きく変わります。

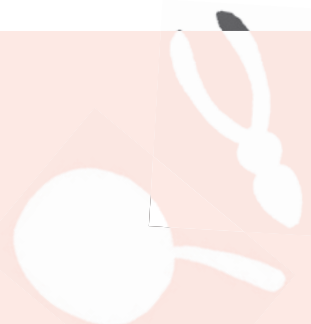
2週間前までにマスターすべきこと

- 用語を暗記している。
- 用語を理解している。
- 教科書のグラフや図を理解している。

そのためにすべき行動

- ・ 栄光ワークや学校ワークで問題を解く。
- ・ 周辺知識や出来事の背景を併せて覚える。
- ・ 用語の説明をできるようにする。
- ・ 授業で先生が説明したポイントをメモしておく。
- ・ ニュースや新聞をチェックする。

技術は実習で使用した道具の名前や使い方、作業の手順や注意すべき点について整理しておきましょう。理科の知識を問われることや回路図の作図問題が出ることもあります。家庭科は栄養素の種類や調理法、ミシンの使用法などを必ず覚えましょう。実習中の先生の説明やプリントも再チェックが必要です。



定期テスト 結果記録表

()期 ()テスト

	国語	数学	英語	理科	社会	3科	5科	音楽	保健体育	美術	技術・家庭	9科
得点												
平均点												
順位												
振り返り												

()期 ()テスト

	国語	数学	英語	理科	社会	3科	5科	音楽	保健体育	美術	技術・家庭	9科
得点												
平均点												
順位												
振り返り												

()期 ()テスト

	国語	数学	英語	理科	社会	3科	5科	音楽	保健体育	美術	技術・家庭	9科
得点												
平均点												
順位												
振り返り												

()期 ()テスト

	国語	数学	英語	理科	社会	3科	5科	音楽	保健体育	美術	技術・家庭	9科
得点												
平均点												
順位												
振り返り												

()期 ()テスト

	国語	数学	英語	理科	社会	3科	5科	音楽	保健体育	美術	技術・家庭	9科
得点												
平均点												
順位												
振り返り												